

試料・情報利用研究計画書(概要)				
研究番号	2024-1036	利用形態	共同研究	
研究題目	子どもの発達およびメンタルヘルスに関連する要因の検討		研究期間	2024年11月 ~ 2026年3月
主たる研究機関	東京大学	責任者氏名・職	西 大輔	教授
分担研究機関	東北大学東北メディカル・メガバンク機構	責任者氏名・職	栗山 進一	教授
分担研究機関	東北大学大学院医学系研究科	責任者氏名・職	寶澤 篤	教授
研究目的と意義	本研究は、子どもの発達やメンタルヘルスに関連する要因を明らかにすることを目的としています。			
研究計画概要	<p>東北メディカル・メガバンク計画「三世代コホート調査」に参加された妊婦、パートナー、祖父母、兄弟、出生児の調査票データを活用し、以下の曝露要因と、子どもの発達(GazeFinder、ADHD Rating Scale-IV、注意力・集中力検査、ASQ-3)や情緒・行動問題(Child Behavior Checklist)、心の健康問題(Strengths and Difficulties Questionnaire)との関連を調べます。</p> <p>1. 親の睡眠関連行動や睡眠障害と子どもの睡眠問題の関連や、子どもの睡眠問題と親のメンタルヘルスの関連については先行研究がありますが、親の睡眠が子どものメンタルヘルスや発達にどのような関連があるかを検討した研究は限られています。そこで、産前産後の母親と父親の睡眠パターン(寝る場所、規則的な就寝時間等)や睡眠障害などの睡眠に関する問題が、特定の年齢時点での子どもの発達や心の健康問題に与える影響について検討します。</p> <p>2. つわりが子どもの発達に影響する可能性が先行研究で示唆されているが、つわりが子どもの発達に与える影響およびその予測因子について、大規模集団で複数時点・年単位のデータを用いて調査した質の高い研究はありません。そこで、つわりが子どもの発達に与える影響およびその予測因子について、複数時点・年単位のデータを用いて関連を検討します。</p> <p>3. 出生月日を経済学や教育学の観点で調べた研究は存在しますが、精神医学や小児科学の観点で分析した報告はなく、発達や情緒・心の健康を医学的な信頼性・比較可能性を伴う指標で検討することが今後の発展のために重要と考えます。そこで、出生月日に起因する就園・就学時点での発達差が、その後の子どもの発達や心の健康問題へ与える影響について検討します。</p> <p>4. 小児慢性特定疾患・指定難病の子どもの家庭にいたることが、そのきょうだいの心の健康問題に与える影響についての先行研究は、小規模集団での検討が少数存在するのみで有り、さらに同居人数などを考慮した上で比較を行った研究は存在しません。そこで、比較的大規模な集団を対象とし、さらに同居人数などを考慮した上で検討します。</p>			
利用試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加された妊婦、パートナー、祖父母、兄弟、出生児(約7万人) 試料:なし 情報:調査票回答、診療録転記(母児)、基本情報			
期待される成果	子どもの発達およびメンタルヘルスは、小児期の健康のみならず、成人後の心理社会的要因や健康アウトカムにも長期的な影響を及ぼしうる非常に重要なアウトカムで、本研究結果は臨床実践および公衆衛生施策の発展に有益であると考えます。			
倫理審査等の経過	2024年11月 東京大学医学部倫理委員会			
倫理面、セキュリティー面の配慮	研究参加者からご提供いただいた情報は、氏名、生年月日等の個人情報と容易に結びつけられない策を行い、厳重に保管します。提供いただいた情報などをもとにした研究結果が公表されることがありますが、研究については集団として解析を行うため、研究参加者個人が特定される恐れはありません。			
その他特記事項	この研究は国立研究開発法人日本医療研究開発機構医療研究開発推進事業費補助金および東北メディカル・メガバンク事業補助金により実施します。			
(事務局使用欄)	*公開日 2024年12月20日			

